

I 2015 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2015 年度大学評価結果総評】

通信教育課程では 2013 年度に大幅なカリキュラム改革が行われているが、今後のカリキュラム改革の効果の検証を期待したい。加えてメディア授業の一層の拡充やステップ型学習ガイダンスの導入等が検討されており、それらの成果も大いに期待される。通信教育部経済学部は、2 学部（経済学部、経営学部）が担当学部となっているので、全学的な調整機能に加えて両学部間の連携、調整等についても密に行われることを期待したい。

【2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）

各種履修・成績状況や学生アンケート等のデータ蓄積は順調に進んでおり、通信教育学務委員会を通じて、教授会に報告されている。一方で、検証については、手法含め検討をしているが、どのような検証が有意であるか、例えば本学通学課程のカリキュラム変更等でどのような検証が行われているか調査したが、実際に検証したケースが見当たらない。大学評価室事務局にどのような検証が望ましいのか通信教育部事務局を通じて相談したが、明確な回答もないのが実情（自身で検討することという回答であった）である。引き続き、有意な検証方法等について、検討を進めたい。通信教育課程の学部内調整（経営学部との連携）は、各学科の通信教育課程主任・学務委員を通じて、引き続き行っていく。

II 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。 はい いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・経済学部執行部（学部長 1 名、教授会主任 2 名、教授会副主任）
- ・教授会（原則として月 1 回）
- ・通信教育学務委員会/教養教育部会（原則として月 1 回）

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学通信教育部学則
- ・通信教育部学則に関する規程
- ・通信教育関係学部長会議規程
- ・通信教育学務委員会規程
- ・通信教育教養教育部会細則

1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。 はい いいえ

(～400 字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。
大学通信教育設置基準の附則 3「この省令施行の際、現に通信教育を開設している大学の組織、編成、施設及び設備で、この省令の施行の日前に係るものについては、当分の間、なお従前の例によることができる」に拠り、通信教育課程の専任教員は配置していないが、教科担当者も専任教員が担当し、また通学課程の教員が通信教育課程も併せ行う形で教育を行っていることで、カリキュラムにふさわしい教員組織を備えていると判断している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・大学通信教育設置基準

2015 年度専任教員数一覧

(2015 年 5 月 1 日現在)

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計
経済	18	4	0	1	23

※学校基本調査の教員数を記載。実際の所属教員数とは一致しない場合あり。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

経済学部通信教育課程は、経済学科を経済学部が、商業学科を経営学部が担当する形で役割の分担がなされているが、経済学部全体としての教育の最終的な責任の所在は必ずしも明確でない。また、教員組織に関しては、現在まで省令の特例を利用した形であるので、通学課程の専任教員がこれを兼務している状況である。

2 教育課程・教育内容

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教育課程の編成・実施方針】

本学部の教育課程は、通学課程と同様であることを原則としている。ただし、多様な学習ニーズを持つ通信教育部の学生に配慮し、通信教育部独自のカリキュラムを編成する。

さらに、メディア授業をはじめ、地方・週末スクーリング等、社会人学生の利便性向上を目的とした授業形態を提供する。

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性をどのように確保していますか。

A B C

(～400 字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修への配慮が行われているか概要を記入。

2013 年度から大幅なカリキュラム改革を実施し、できる限り通学課程のカリキュラムにあわせると同時に、経済学部経済学科として修得が求められる基本科目を厳選したカリキュラムとした。また、真に学ぶ意欲と適性のある学生に対し、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材を育成するための授業科目を体系的に配置した。これにより、日本の通信教育課程において、幅広く経済学の科目を履修できる学科の 1 つとなっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・経済学科カリキュラム

2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

A B C

(～400 字程度まで) ※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

通信教育課程は、通信学習およびスクーリングの 2 つの形態で授業を実施しているが、特にスクーリングは、昼間 6 日間の夏・冬期スクーリング、夜間 15 週の春期・秋期スクーリング、週末 3 日間の週末スクーリング、全国主要 5 都市での地方スクーリング (3 日間)、これにインターネットを利用したメディアスクーリング、ゴールデンウィーク中の 3 日間に行う GW スクーリングとその形態は多様である。また、夏期スクーリングでは、より社会人が受講しやすいよう 18:30～の時間帯に授業を開講し、そのニーズに応じている。そして、前年度に引き継ぎ、メディアスクーリングの開講科目を増やす努力をしており、通信教育課程全体 (他学科公開科目を含む) として 67 科目 (2016 年度) を開講する。これら多様なスクーリングは、さまざまなニーズを持つ多くの学生にとって、選択肢の幅を広げるのみならず、能力育成の観点からも大きなメリットであると確信している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2016 年度スクーリング開講一覧

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・2015 年度から新たに、在学年数の長い学生に対し、卒業計画書の提出を求め、それに対し指導を行った。	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・カリキュラム変更等を中心とした通信教育部改革後 4 年目を迎える。いわば完成年度であることから、通信教育部改革内容が適切であったか、改善が必要な場合などのような点が挙げられるのか等、引き続き検討を進めたい。
--

【この基準の大学評価】

<p>経済学部経済学科通信教育課程では、2013 年度から通学課程のカリキュラムに合わせる形でカリキュラム改革が実施されており、学生の能力育成の観点から、カリキュラムの順次性・体系性が適切に確保されている。また、さまざまなニーズを持つ通信教育課程の学生に対して多様な形態での授業が提供されており、学生の能力育成のための教育課程・教育内容は年々充実しており、その提供は適切である。</p> <p>通信学習と集合型のスクーリングを適切に織り交ぜた教育課程となっており、学生の多様なニーズに答え、能力開発に高い効果が得られたものと認められる。</p>
--

3 教育方法

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	A B C
<p>【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web 学習相談制度 ・ステップ型の学習ガイダンス (1 ステップ:職員による制度説明・2 ステップ:卒業生による経験談他・3 ステップ:教員による学習指導他) <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	A B C
<p>(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>通信学習を進めるにあたり、生じた疑問点に質問することが可能な「学習質疑」制度があり、直接担当教員の指導を受けることが可能となっている。また、スクーリング時においてもオフィスアワーを設置している。夏期・冬期スクーリングに加え、全国で実施している地方スクーリング時にも「通教生のつどい」を実施し、学生間のみならずこれに参加する教員・学生間での情報交換も可能となるような場の提供も行っている。直近の「通教生のつどい」(冬期スクーリングにて開催)には、約 100 名の学生および教員が参加し、学習意欲向上の一助にもなっている。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習サポート_学習のしおり 2016 より抜粋 	
3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	はい いいえ
<p>【検証体制および方法】※箇条書きで記入 (取組例:執行部 (〇〇委員会) による全シラバスチェック等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教授会執行部による全シラバスチェック <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい いいえ
<p>【検証体制および方法】※箇条書きで記入 (取組例:後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケート質問事項「授業の運営が適切であった」等で確認 <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績評価方法と単位認定の内容の明記および遂行 通信学習_設題総覧「設題解答にあたっての解説・注意等」 シラバス「成績評価基準」 スクーリング_シラバス「成績評価基準」、「講義内容」「予習範囲」等単位認定への道筋を記載 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> Web シラバス記載のシラバス 	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>編入学者の単位認定は、2 年次・3 年次および通学課程からの 4 年次編入、学士入学者ごとに認定範囲を定めており、併せてスクーリング単位についても一定の範囲で認定を行っている。また、在学中に放送大学で修得した単位を最大 10 単位まで本学のスクーリング単位として認定する制度もある。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 放送大学単位認定_学習のしおり 2016 より抜粋 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> 2017 年度に向けて通学課程では学年歴の見直しが検討されている。その検討をはじめ、通学課程に併せた教育方法の検討をしていく。 これまで通信教育部生においては、総合情報センターの判断により各学生に統合認証 ID が付与されていない状況であり、それに伴い授業支援システム等を利用できない状況である。2017 年度に向けて、統合認証 ID の付与を検討するよう総合情報センターと交渉をしており、実現すれば教育効果の大幅な向上が期待できる。
--

【この基準の大学評価】

<p>経済学部経済学科通信教育課程における学生の履修指導及び学習指導は適切である。通教の性質上 Web 学習相談制度およびステップ型の学習ガイダンス方式は適切かつ有効である。また、シラバス作成の適切性及びシラバスに基づく授業の検証は行われている。さらに、他大学等における既修得単位の認定は適切に実施されている。成績評価と単位認定の適切性の確認は学部教授会の中で通教として個々の教員の判定を受けた後、進級卒業判定が行われており適切である。</p> <p>授業アンケート結果の活用については、通信型では講義ビデオが主体となるので、授業アンケートなどからの講義内容への反映は 5 年毎のタイミングとなってしまう、迅速な対応は困難であることは理解できる。学部教授会や質保証委員会で検討した改善結果は集合型のスクーリング時で反映するなど、タイミング良い補完方法、工夫が望まれる。</p>
--

4 成果

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

<p>【学位授与方針】</p> <p>「自由と進歩」の建学の精神を理解し、年齢に関係なく学問の関心を持ち続け、何事にも挑戦し続ける姿勢を持つことを前提とし、人文・社会・自然などに関する幅広い教養と、通学課程と同一水準の、時代の先端を行く専門分野の学識を取得し、生涯学習社会において、自立的に自由な発想と柔軟な判断が出来る能力を修得することを学位授与方針とする。経済学及び経営学の専門分野を網羅した専門科目について、スクーリングなどを通して履修し、所定の単位を取得した上で 124 単位を修得した者に対し、学位を授与している。</p>

4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。	
①学生の学習成果を測定していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入(習熟度達成テストや各種アンケートの活用状況等)。 通信科目はレポート添削に加え、単位修得試験(筆記試験)で最終的な到達点を測定している。スクーリングでは、授業の最終日に実施する最終試験(筆記試験)でその成果を測っている。また、メディアスクーリングでは、中間レポートも課している科目も多くあり、学習効果の向上を心掛けている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
②成績分布、進級などの状況を学部(学科)単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※箇条書きで記入。 ・進級判定は、卒業判定と併せて教授会審議事項 ・成績分布/レポート数/単位修得試験者数/スクーリング受講者数等、学務委員会を通じて教授会報告</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等(必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・引き続き成績分布等のデータ蓄積を行う。

【この基準の大学評価】

経済学部経済学科通信教育課程における学生の学習成果の測定に関しては、個別の科目の評価は個々の教員が行い、経済学部経済学科として教授会にて進級者名簿一覧候補の形で提示され、履修要綱に適合したものが進級判定を行っており適切である。

5 学生の受け入れ

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学生の受け入れ方針】	
<p>本学部は、「社会に開かれた大学」として、高等教育の門戸を広く開放する。学ぶ意欲のある幅広い年齢層に対し、「いつでも、どこでも」学べる環境を整備する。 高等教育機関であることを前提として、学問に真摯に取り組み、生涯学習社会にあつて、自己の知識や能力を社会に還元する意欲をもった人材を受け入れる。</p>	
5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	
①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。 定員充足のあり方については、通信教育課程全体にかかわる大きな課題である。一方で、文部科学省担当部署も本件について十分認識していることを確認している。学務部教学企画課と連携を図り、他大学の事例をはじめ、情報収集に力を入れ、引き続き慎重に検討したい。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・大学通信教育設置基準</p>	
5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。	

①学生募集および入学選抜の結果について検証していますか。	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C
【検証体制および検証方法】 ※箇条書きで記入。 ・志願者数/合格者数/入学者数等の関連データは、学務委員会を通じて教授会報告 ・志願者選考等は通信教育課程主任/学務委員が実施・検証（通読判定と呼んでいる）			
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし			

(2) 特記事項 (任意項目)

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・通信教育部の定員充足のあり方については、通学課程の設置・認可、アフターケア等への影響もあるため、引き続き学務部教学企画課と密に連携をとる。
--

【この基準の大学評価】

経済学部経済学科通信教育課程では通信教育課程の特殊性に鑑み、定員の未充足に関する評価は留保せざるをえない。学生募集結果及び入学選抜の結果についての検証は、学務委員会及び教授会のレベルで適切に行われていると見られる。

6 学生支援

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。			
①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。		<input checked="" type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。 ・卒業判定は、進級判定と併せて教授会審議事項 ・休・退学は、学生からの申請に基づき教授会審議事項			
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし			

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

経済学部経済学科通信教育課程では、卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況は把握されていると見られる。

7 内部質保証

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

① 質保証に関する活動は適切に行われていますか。

はい いいえ

【2015年度の質保証に関する活動概要】 ※簡条書きで記入。

- ・通信教育課程の学事事項は、通信教育学務委員会で審議事項
- ・必要に応じて、教授会の審議・報告事項
- ・通信教育学務委員会の委員の内、1名はFDアドバイザー・ボードの構成員
- ・通信教育部事務部管理職は、FDアドバイザー・ボードの構成員
- ・シラバスの第三者確認は、通学課程同様、教授会執行部で実施
- ・通信教育課程主任/学務委員設置による運営責任の明確化した組織体制

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、簡条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

経済学部経済学科通信教育課程は通学課程と異なり、質保証委員会等の第三者的な機関の設置までは求められていないが質保証に関する活動は学部・通教・大学院が一体となった質保証委員会の活動の一環として進められており適切である。

【大学評価総評】

経済学部経済学科通信教育課程は通信教育課程の特殊性もあると思われるが、通学課程と比較して、全体的に自己点検・評価活動は十分ではなく、当該活動に関する記述も不十分である。また、教育方法の評価や成果の評価に関しては、通学課程と異なり、個々の教員に委ねた形のものもいくつか見られ、学部長を中心とした執行部主導の体制の整備が必要である。さらに、2015年度に指摘された経営学部(商業学科担当)との連携・調整等については、通信教育部の経済学部全体としての教育の最終的な責任の所在を明確にし、経済学科と商業学科を含めた経済学部全体としての自己点検・評価システムの確立が求められる。